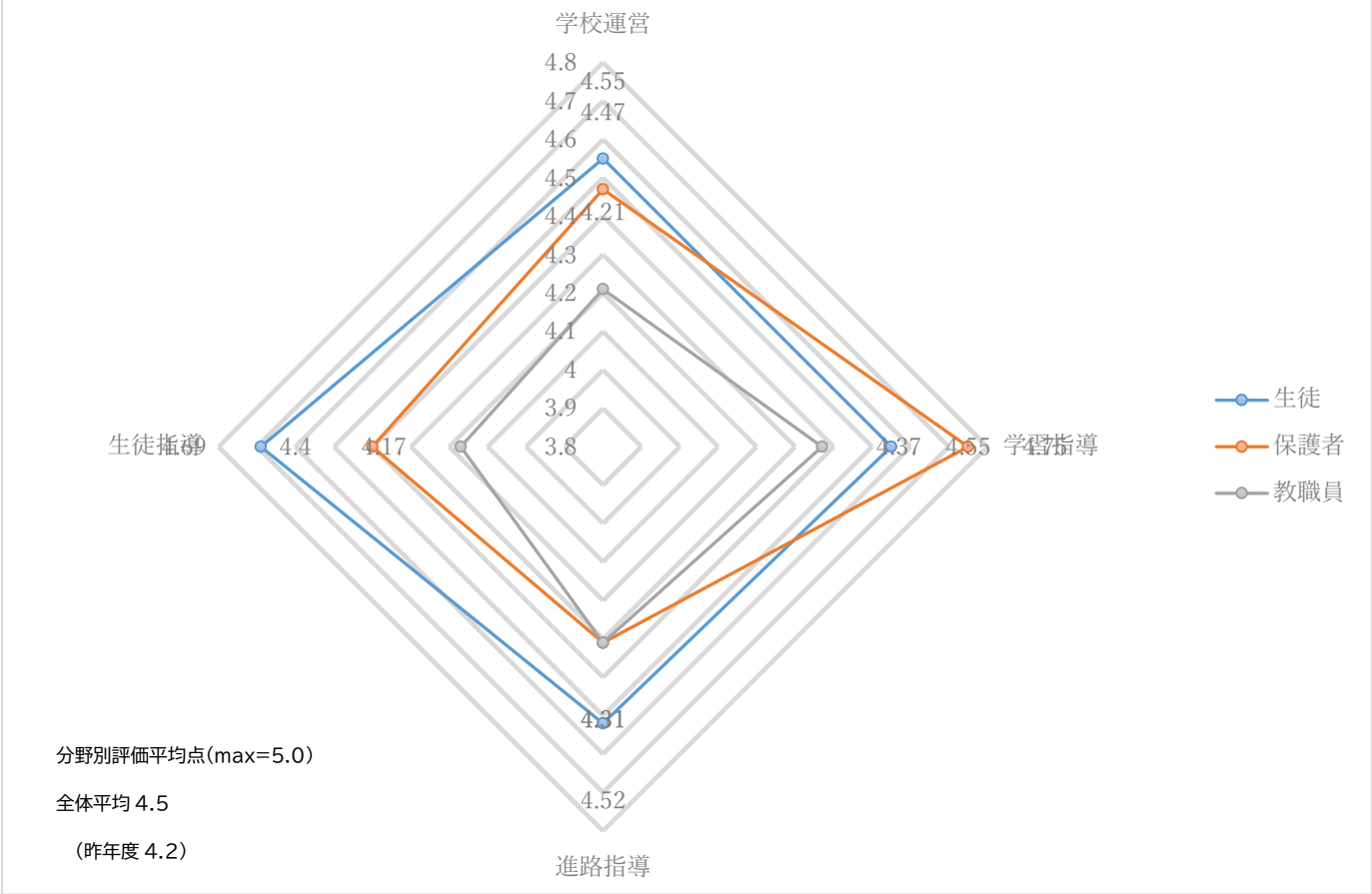


1. 2024年度 学校評価結果
【新潟会場】



2. 学校自己評価— 5段階評価—
【新潟会場】

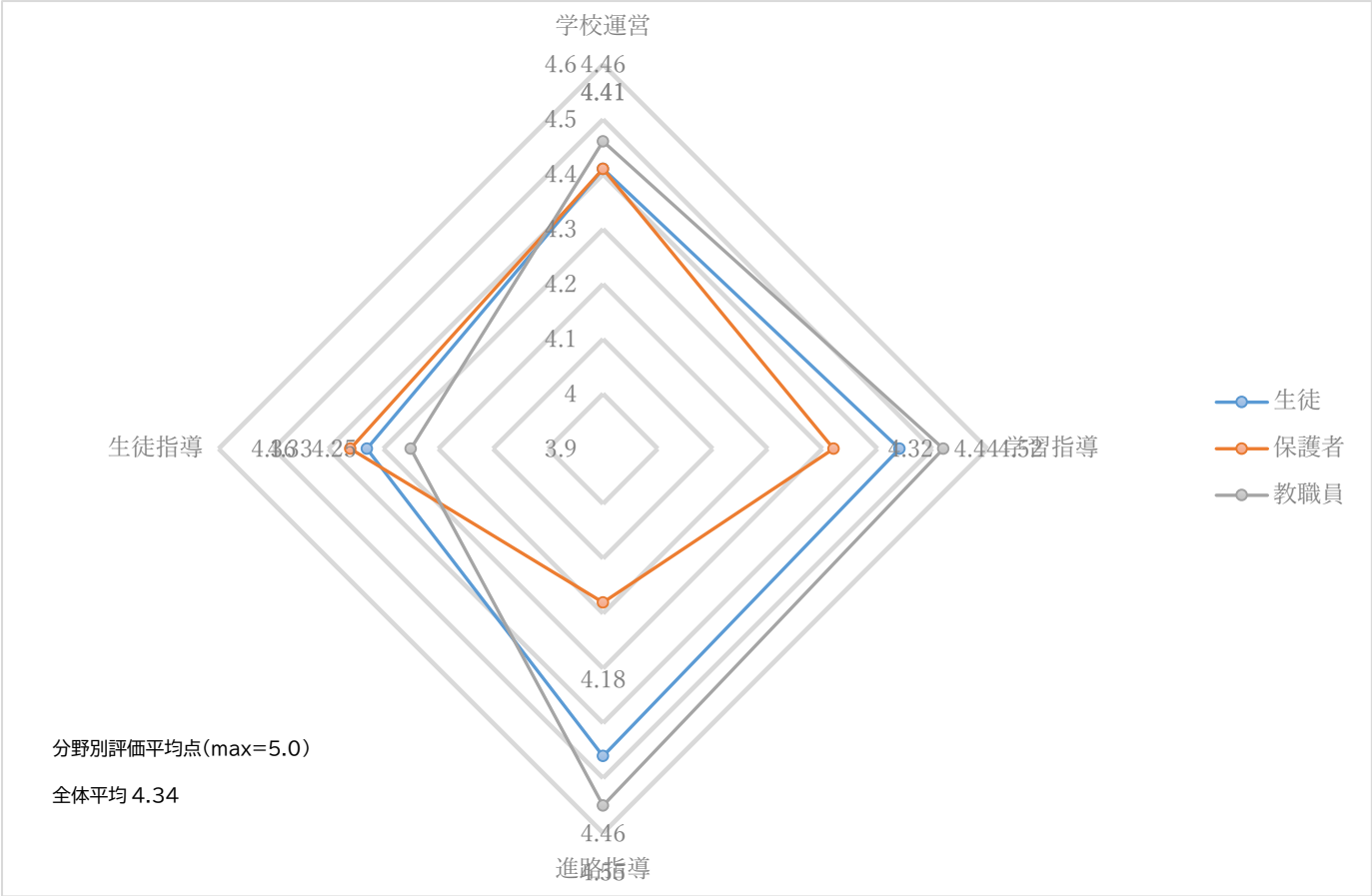
分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営 4.41 生徒：4.55 保護者：4.47 教職員：4.21	教育方針に沿った適切な運営を実践	・教育方針にある「生徒一人ひとりを大切に」を基本に据え、自主自律の精神を育み、人間性豊かな好奇心旺盛な生徒を育てる」ことについて、多くの生徒保護者から理解を得ていることがわかった。 ・本校の教育方針に基づいた取り組みにおいては、約8割の生徒が日常の学習活動や学校生活の中でその内容を理解し、実践できている状況。教職員の指導の工夫や継続的な指導体制の成果であり、生徒一人ひとりが方針に沿った行動を意識して取り組んでいることの表れといえる。 ・学校運営に関する満足度は、生徒・保護者ともに高い評価を得た。	・個々の生徒に応じた指導の充実と質の担保を行い、生徒・保護者に対しても、随時発信をしていく。 ・全ての生徒の実践を目指すために、実践できていない生徒の傾向や原因（理解不足・動機づけ・家庭環境など）を把握し、個別対応や補充指導、面談などを取り入れる。 ・自主自律の精神を学校との設定の場を活かしながら、さらなる向上を目指していく。

学習指導 4.56 生徒：4.55 保護者：4.75 教職員：4.37	学習意欲の醸成と基礎学力の獲得の定着をはかる	・生徒が自ら意欲喚起を行い、自ら学び主体的に学習活動に取り組む姿勢を養うための工夫（面接指導時間・映像視聴メディア等）を行うとともに、添削指導についても教職員の意欲が、生徒・保護者に伝わっている。 ・映像視聴メディアや面接指導時間での学習指導を通して、学習意欲の喚起につながっている。 ・単位修得率は全体に高いが、計画的に自学自習を行うことための支援については課題が残る。 ・オンラインコーチングの利用率が課題であり、利用者と非利用者との間であまり単位習得率に変化がないことが課題である。	・面接指導時間やホームルーム・個別面談を通して、意欲喚起を行い、生徒自ら学習計画を立てるとともに、進捗においても自己管理を行い、基礎学力定着に向けた取り組みを、あらゆる生徒・保護者との接点にて継続的に実施をしていく。 ・生徒・保護者・学校と密な連携形態の構築を行い、学習指導の方針理解を促進させていく必要がある。 ・オンラインコーチングの目的理解を進めていくことともに、すべての生徒が利用し、学習進捗の支援を行いながら単位習得促進を進めていく。
進路指導 4.38 生徒：4.52 保護者：4.31 教職員：4.31	計画的な進路指導の実践	・多様な生徒の特性を踏まえて進路指導・進路説明会などの情報提供についても概ね理解をいただいている。 ・新潟産業大学進学に向けて、大学との連携を行い、計画的に指導を行っている。一方では、1名の新潟産業大学（通信）進学にとどまっており、内部進学に向けた理解を深めていくことが課題である。 ・オンライン進路サポートの利用率が低く、進路決定の促進につながっていないことが課題と言える。一方で、実施の有無にかかわらず進路決定率については例年と変わりが無い。	・3年間での進路指導計画を適切に設定し、目標課題に沿った指導ができています。 - また、生徒一人ひとりにあった、キャリア教育を柱とし、自ら考え自ら行動していく意欲喚起を、面接指導時間・個別面談にて実践を継続的に行うことができた。 ・新潟産業大学との一貫教育の仕組みの構築と、個々の生徒がキャリアプランを行うための知識・スキルの育成に取り組み、自ら進学へ向けた取り組みをできるような、情報発信を定期的に行っていく。 ・すべての生徒・保護者がオンライン進路サポートの理解を促し、常時利用される状態にしていく。

生徒指導 4.42 生徒：4.69 保護者：4.40 教職員：4.17	基本的な生活習慣を身に着ける	・指定されたスクーリング実施日（面接指導時間）に、約 9 割と多くの生徒が登校し、学びを行うことができている。また、学習時の意欲・態度においても、生徒・保護者の意識も高く、概ね良好である。 ・面接指導時間・個別面談を通して、ルール・規範についての確認を随時行い、集団の中でマナーやモラルについて自ら考え行動する意識を醸成する指導を実施できた。 ・生徒・保護者・学校との密な連携関係（システム）の構築が課題である。	・スクーリング実施日（面接指導時間）にて、集団の中でのコミュニケーションの場を創出し、自他肯定感の醸成を図っている。 ・あいさつ・マナーの指導を面接指導時間の始業・終業時に行い、基本的な能力を身に着けるための施策を進めていく。 ・連絡ツールを活かし、家庭との密な連携関係構築と認知を行っていく。
--	---------------------------	---	--

3. 学校評価結果

【東京会場】



4. 学校自己評価—5段階評価—

【東京会場】

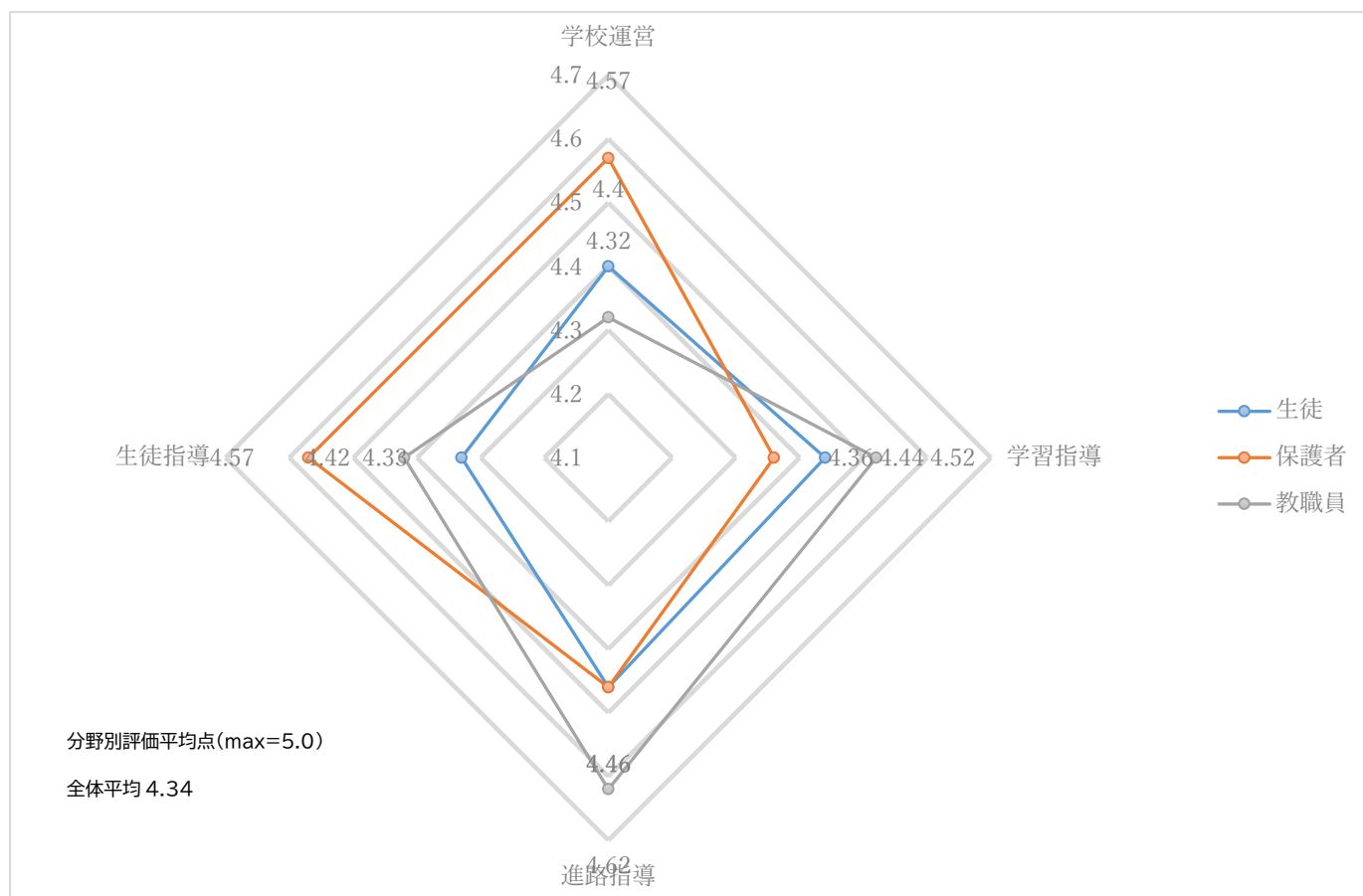
分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営 4.40 生徒：4.36 保護者：4.38 教職員：4.46	教育方針に沿った適切な運営を実践	・教育方針にある「生徒一人ひとりを大切に」を基本に据え、自主自律の精神を育み、人間性豊かな好奇心旺盛な生徒を育てる」ことについて、生徒保護者ともに理解を得ている状態である。 ・学校方針や教育目標を明確にするとともに、関係諸法令の教職員全体の理解を進めていくことが重要ととらえている。 ・面接指導会場（協力校）である明星学苑中学・高等学校との密な連携により、安心・安全なスクーリング運営について理解がされている。	・個々の生徒に応じた指導の充実と質の担保を行い、生徒・保護者に対しても、随時発信をしていく。 ・途中入学（転入生）への理解促進のために、毎月ガイダンスを実施して、目的理解の浸透を進めていく。
学習指導 4.40 生徒：4.44	学習意欲の醸成と基礎学力の獲得の定着をはかる	・学習意欲の醸成と基礎学力の獲得を重視し、日々の学習活動に取り組み、約8割の生徒が自ら積極的に学び続け、基礎学力の定着を図る姿勢を実践できている状況が見られる。面接指導時間や課題を通じて生徒一人ひとりに学びの重要性を認識させ、学習習慣を確立す	・指導計画に則り、学習計画を随時、生徒・保護者へ共有を図るとともに、締切期限や提出状況を踏まえたお知らせを定期的に行い、自ら学習の自己管理ができるように整えていく。

保護者：4.25 教職員：4.52		るための指導が効果を上げることができた。 しかし、残りの生徒に対しては、さらなる支援や動機づけが必要であり、今後は個別対応を強化し、全生徒の学習意欲向上を目指していく。 - 教科書・映像視聴メディア・面接指導時間での学習指導を通して、学習意欲の喚起につながっており、計画的に添削課題を進めていく生徒が多い。一方で、自律して計画的に進めることができない生徒にはオンラインコーチングの利用促進が課題である。 - オンラインコーチングの利用率が課題であり、利用者と非利用者との間であまり単位習得率に変化がないことが課題である	- 生徒一人ひとりの学習状況や意欲の特性に応じた支援を充実させていくこと取り組みとして、学習習慣の定着を図る取り組みや、個別の成功体験を積み重ねる指導、家庭との連携を通じて、全ての生徒が「学び続ける力」を育めるよう努める。 - すべての生徒・保護者がオンライン進路サポートの理解を促し、常時利用される状態にしていく。
進路指導 4.39 生徒：4.45 保護者：4.19 教職員：4.55	計画的な進路指導の実践	- 生徒一人ひとりの適性或希望を踏まえた計画的な進路指導の実践に取り組み、進路希望の早期把握をはじめ、定期的な個別面談や進路ガイダンス、志望理由書や面接練習などの指導を段階的に行うことで、生徒の進路意識を高めるとともに、必要な準備を着実に進める体制を整えたことにより、全体の約7割の生徒が進路希望を実現し、進学・就職において具体的な成果を上げることができた。今後は、残る生徒へのさらなる支援体制の充実を図り、すべての生徒が自らの将来を見据えて進路を切り拓けるよう、より丁寧な個別指導や情報提供を推進していく。 - 新潟産業大学進学に向けて、大学との連携を行い、計画的に指導を行っている。一方では、1名の新潟産業大学（通信）進学にとどまっており、内部進学に向けた理解を深めていくことが課題である。 - オンライン進路サポートの利用率が低く、進路決定の促進につながっていないことが課題と言える。一方で、実施の有無にかかわらず進路決定率については例年と変わらない。	- すべての生徒が希望する進路を実現できるよう、進路指導の方法をさらに工夫していく。 - 進路に悩んでいる生徒には、オンライン進路サポートをおこない、じっくり話を聞きながら必要なサポートを行っていきながら、学習や生活面の相談も含めて、丁寧に支援していく。 - 進路に関する情報をもっとわかりやすく、タイミングよく伝えるよう工夫をおこなう。 - 生徒一人ひとりにあった、進路指導計画において、キャリア教育を柱とした、自ら考え自ら行動していく意欲喚起を、面接指導時間・個別面談にて実践を継続的に行う。 - 新潟産業大学との一貫教育の仕組みの構築と、個々の生徒がキャリアプランを行うための知識・スキルの育成に取り組み、自ら進学へ向けた取り組みをできるような、情報発信を定期的に行っていく。 - すべての生徒・保護者がオンライン進路サポートの理解を促し、常時利用される状態にして

			いく。
生徒指導 4.32 生徒：4.36 保護者：4.37 教職員：4.25	基本的な生活習慣を身に着ける	・指定されたスクーリング実施日（面接指導時間）に、約7割と多くの生徒が登校し、学習を行うことができています。一方で、3割の生徒が継続した登校ができていない。すべての生徒が登校できるサポート体制の構築が課題である。 ・面接指導時間・個別面談・HRを通して、ルール・規範についての確認を随時行い、集団の中でマナーやモラルについて自ら考え行動する意識を醸成する指導するとともに、東京会場である明星学苑中学・高等学校利用に対する感謝の気持ちの育成を行うことができた。	・スクーリング実施日（面接指導時間）にて、集団の中でのコミュニケーションの場を創出し、自他肯定感の醸成を図っていく。 ・あいさつ・マナーの指導を面接指導時間の始業・終業時に行い、基本的な能力を身に着けるための施策を進めていく。 ・社会規範の理解・促進に向けた全体講和の帰化を設定し、より高いレベルの規範意識を育む。

5. 学校評価結果

【大阪会場】



6. 学校自己評価—5段階評価—

【大阪会場】

分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営 4.42 生徒：4.40 保護者：4.53 教職員：4.33	教育方針に沿った適切な運営を実践	・教育方針にある「生徒一人ひとりを大切に」を基本に据え、自主自律の精神を育み、人間性豊かな好奇心旺盛な生徒を育てる」ことについて、多くの生徒保護者から理解を得ている。また、保護者の理解が生徒よりも高く、家庭との連携が取れている。 ・学校方針や教育目標を明確にするとともに、関係諸法令の教職員全体の理解を進めていくことが重要ととらえている。 ・面接指導会場（協力校）である追手門学院中学・高等学校との密な連携により、安心・安全なスクーリング運営について理解がされている。	・個々の生徒に応じた指導の充実と質の担保を行い、生徒・保護者に対しても、随時発信をしていく。
学習指導 4.44	学習意欲の醸成と基礎学力の獲得の定着をはかる	・生徒が自ら意欲喚起を行い、自ら学び主体的に学習活動に取り組む姿勢を養うための工夫（面接指導時間・映像視聴メディア等）を行うとともに、定期的な情報発信により生徒・	・面接指導時間やホームルーム・個別面談を通して、意欲喚起を行い、生徒自ら学習計画を立てるとともに、進捗においても自

生徒：4.44 保護者：4.36 教職員：4.52		保護者の理解が深まっている。 ・教科書・映像視聴メディア・面接指導時間の学習指導を通して、学習意欲の喚起につながっており、計画的に添削課題を進めていく生徒が多い。一方で自律して計画的に進めることができない生徒にはオンラインコーチングの利用促進が課題である。 ・オンラインコーチングの利用率が課題であり、利用者と非利用者との間であまり単位習得率に変化がないことも課題である	己管理を行い、基礎学力定着に向けた取り組みを、あらゆる生徒・保護者との接点にて継続的に実施をしていく。 ・すべての生徒・保護者がオンライン進路サポートの理解を促し、常時利用される状態にしていく。
進路指導 4.50 生徒：4.45 保護者：4.45 教職員：4.62	計画的な進路指導の実践	・多様な生徒の特性を踏まえて進路指導・進路説明会などの情報提供についても概ね理解をいただいている。進路の実現に課題を抱える生徒も一定数存在しており、今後は、よりきめ細かな個別支援の強化や、進路意識の早期形成を図る取り組みをさらに推進し、生徒全体の進路実現率向上を行っていくことが課題である。 ・新潟産業大学進学に向けて、大学との連携を行い、計画的に指導を行っている。一方では、新潟産業大学への進学者は0名。内部進学に向けた理解を深めていくことが課題である。 ・オンライン進路サポートの利用率が低く、進路決定の促進につながっていないことが課題と言える。一方で、実施の有無にかかわらず進路決定率については例年と変わりがない。	・生徒一人ひとりにあった、進路指導計画において、キャリア教育を柱とした、自ら考え自ら行動していく意欲喚起を、面接指導時間・個別面談にて実践を継続的に行う。 ・新潟産業大学との一貫教育の仕組みの構築を行い、個々の生徒がキャリアプランを行うための知識・スキルの育成に取り組む。 ・すべての生徒・保護者がオンライン進路サポートの理解を促し、常時利用される状態にしていく。
生徒指導 4.46 生徒：4.36 保護者：4.61 教職員：4.42	基本的な生活習慣を身に着ける	・指定されたスクーリング実施日（面接指導時間）に、約8割と多くの生徒が登校し、学びを行うことができています。また、概ね生活習慣も良好で、安定した生活をくれている生徒が多い。 ・面接指導時間・個別面談を通して、ルール・規範についての確認を随時行い、集団の中でマナーやモラルについて自ら考え行動する意識を醸成する指導を実施できた。	・スクーリング実施日（面接指導時間）やHRを活かし、集団の中でのコミュニケーションの場を創出し、自他肯定感の醸成を図っていく。 ・あいさつ・マナーの指導を面接指導時間の始業・終業時に行い、基本的な能力を身に着けるための施策を進めていく。

7. 2024年度 学校基本データ

【学校名】新潟産業大学附属高等学校（通信制）

【所在地】新潟県柏崎市大字安田 2510 番地 2

TEL：0257－24－6644（代表）

0257－41－6010（通信制課程教務室）

【創 立】1958年 新潟短期大学附属高等学校設立認可

1987年 新潟産業大学附属高等学校に校名変更

【理事長】阿部 雅明（アベ マサアキ）

【校 長】藤井 泰昭（フジイ ヤスアキ）

【課 程】通信制課程・普通科

【教育理念】人間力を磨いて主体的自我を確立し、新しい時代感覚を持って社会に貢献する人間を育成する。

【教育の目標】自ら学び、自ら考え、自ら行動する自立（自律）した人間を育てる。

【教育方針】（通信制）「生徒一人ひとりを大切に」を基本に捉え、自主自律の精神を育み、
人間性豊かな好奇心旺盛な生徒を育てる

【全生徒数】合計：251名

年次	生徒数
1年次	54名
2年次	86名
3年次以上	111名
計	251名

2024. 5. 1現在

【教職員数】

校長	1
副校長	1
教頭	1
教諭	3
講師	10
事務	1

【卒業者数】 卒業者 50 人

【進路状況】 聖学院大学 1、東京通信大学 1、東京基督教大学 1、新潟産業大学 1、大正大学 1、
新潟医療福祉大学 1、京都芸術大学 1、敬和学園大学 1、杉野服飾大学 1、東京未来大学 1、
新潟薬科大学 1、東洋学園大学 1、日本大学 2、京都美術工芸大学 1、同志社女子大学 1、
帝京大学 1、東京情報デザイン専門職大学 1、
関東学院大学 1、大阪芸術大学 1、実践女子大学 1、国際こども・福祉カレッジ 1、
長岡こども・医療・介護専門学校 1、東京情報クリエイター工学院専門学校 1、
ECC 国際外語専門学校 1、悠久山栄養調理専門学校 1、ヴェールルージュ美容専門学校 1
就職 8

2025年3月31日現在